

3年1組 体育科学習指導案

授業日 平成26年9月30日(火) 授業B
 授業者 附属新潟小学校 教諭 山形 昭
 会場 体育館

1 単元名 「クルッとキャッチ！新体操」 <A 体づくり運動 イ 多様な動きをつくる運動 ~ (オ) 基本的な動きを組み合わせる運動 ~>

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の2内容のA体づくり運動に、次のように示されている。

運動	(1) 次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようにする。 イ 多様な動きをつくる運動では、体のバランスや移動、用具の操作などとともに、それらを組み合わせること。
態度	(2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
思考・判断	(3) 体づくりのための運動の行い方を工夫できるようにする。 イ 多様な動きをつくる運動の行い方を知り、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れること。

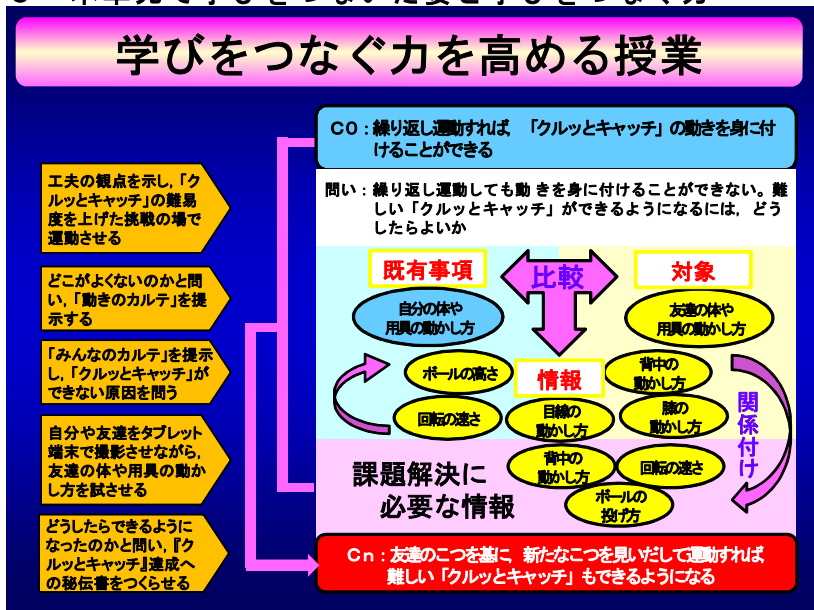
本単元では、多様な動きをつくる運動(オ)基本的な動きを組み合わせる運動を取り上げる。基本的な動きを組み合わせる運動とは、本単元においては、(ア)体のバランスをとる運動と(ウ)用具を操作する運動を組み合わせる運動のことである。具体的には、様々な種類のボールを投げ上げてから前回りをしたり、1本の足を軸にして回転したりして、落ちてきたボールをキャッチする運動である。

第1学年及び第2学年では、(ア)体のバランスをとる運動遊び、(イ)体を移動する運動遊び、(ウ)用具を操作する運動遊び、(エ)力試しの運動遊びで構成されていたが、第3学年及び第4学年からは、「運動遊び」が「運動」に変化し、さらに、(オ)基本的な動きを組み合わせる運動が新たに加わった。基本的な動きを組み合わせる運動とは、「~しながら~する」「~してから~する」という2つの動きを同時に行うことを通して、巧みに動いたり、より滑らかに動いたりすることができるようにし、動きの質を高めることをねらいとしている。今回は、後述の「~してから~する」動きに取り組みさせる。

以上のことから、本単元で扱う運動は、多様な動きをつくる運動として非常に価値のあるものである。

さらに、本単元では、自分と友達の体や用具の動かし方を比較させて動きを身に付けるための「動きのこつ」を見いださせる。それにより、子どもは、他の運動場面でも自分のできない原因とその運動における動きのこつとを関係付けて考えようとする態度が養われ、生涯にわたって運動に親しむことにつながっていくのである。

3 本単元で学びをつないだ姿と学びをつなぐ力



本単元で目指す子どもの姿は、様々な種類のボールを投げ上げてから前転をしたり、1本の足を軸にして回転したりして、落ちてきたボールをキャッチする動き(以下、クルッとキャッチ)のこつを見だし、動きを身に付ける子どもである。この姿が、本単元で学びをつないだ姿である。「繰り返し運動すれば、『クルッとキャッチ』を身に付けることができる(C0)」と考える子どもにも、目指す姿にもたせかける必要がある。そのために、「動きの工夫の観点」を提示し、難易度を上げた「クルッとキャッチ」に挑戦させる。すると子どもは、難しい「クルッとキャッチ」ができなくなる。そして、

いるか」という、体の部位や用具と、動きのこつになり得る動かし方を視点として示し、確かにおく。せめてその視点を運動しながら確かめ方を正確に判断できるように、ペタで撮影させる。すると子どもは、自分の用具の動かし方に着目する。

動きのカルテ			
(目線)	足もどる	ボール	そのた ()
(ひざ)	曲げる	のぼす	そのた ()
(背中)	丸め	まっすぐ	そのた ()
(ボール)	低い	高い	そのた ()
(回る速さ)	遅い	速い	そのた ()
そのほかのこつ			

自分の体や用具の動かし方に着目した子どもに、拡大した「動きのカルテ」を提示し、自分の「動きのカルテ」で選んだ体や用具の動かし方と同じところにシールを貼らせる。また、「動きのカルテ」に示された観点以外の動かし方をした場合は、付箋にその旨を記入させ、拡大した「動きのカルテ」に貼らせる（以下、「みんなのカルテ」）。貼られた付箋は、分類しておく。

働き掛け 3
「みんなのカルテ」を提示し、「クルッとキャッチ」ができない原因を問う。

「動きのカルテ」から自分が選択した体や用具の動かし方と友達が選択した体や用具の動かし方との比較により、動きのこつを見いだす視点の違いに気付かせ、できない原因を自覚させるための働き掛けである。自分の体や用具の動かし方に着目した子どもに、「みんなのカルテ(対象)」を提示し、「クルッとキャッチ」ができない原因を問う。子どもは、**比較するすべ**を用いて、自分の「動きのカルテ」に記された自分の体や用具の動かし方と「みんなのカルテ」に記された友達の体や用具の動かし方とを比べる。そして、相違点に挑戦の場を達成できない原因があるのではないかと気づき、友達の体や用具の動かし方をまねしてみようとする。体や用具の動かし方を発表した子どもには、体や用具の動かし方の程度を問い返す。問い返すことで、動きのこつを見いだしやすくしておく。

働き掛け 4
自分や友達をタブレット端末で撮影させながら、友達の体や用具の動かし方を試させる。

動きのこつを見いださせ、動きを身に付けさせるための働き掛けである。「友達の体や用具の動かし方をまねしてみよう」と考えた子どもに、まねしてみようと考えた友達の体や用具の動かし方を実際に運動させ、挑戦の場を達成するのに適しているかどうかを判断させる。その際、自分や友達の体や用具の動かし方を可視化するためにタブレット端末で撮影させる。試した友達の体や用具の動かし方で、自分の挑戦の場を達成する子どももいれば、そうでない子どももいる。達成できない子どもには、「みんなのカルテ(対象)」から別の体や用具の動かし方を選んだり、**自分と同じ「クルッとキャッチ」ができた友達の体や用具の動かし方(対象)**をタブレット端末で撮影したりするように促す。子どもは、「対象から新たな情報を得る→試す」という一連の流れを繰り返す。このときの子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、自分の体や用具の動かし方と友達の体や用具の動かし方とを関係付けて考え、「クルッとキャッチ」のこつを見だし、「クルッとキャッチ」ができるようになる。

また、このときの活動をフローチャート図に記させておき、次の働き掛けのときに活用する。

働き掛け 5
どうしたらできるようになったのかと問い、「『クルッとキャッチ』達成への秘伝書」をつくらせる。

学びをつなぐ力を発揮したことを自覚させるための働き掛けである。「クルッとキャッチ」のこつを見いだして「クルッとキャッチ」の動きを身に付けた子どもに、「どうしたらできるようになったのか」と問い、フローチャート図を基に、秘伝書をつくらせる。子どもは、**既存の見方(C0)と動きのこつをつなぎ、目指す姿(Cn)**となる。

6 本時の構想 4 / 4 時間 (45分授業)

(1) ねらい

比較するすべと関係付けるすべを用いて、「クルッとキャッチ」のこつを見だし、「クルッとキャッチ」の動きを身に付けることができる。

(2) 主張(展開) 3Q (45分)

このような子どもに (C0)

- ボールを投げ上げて捕ったり、ボールを保持してバランスをとったりする動きを経験している。
- 床で1本の足を軸に回転する動き、マットで回る動き（前転、後転、横回り、側方倒立回転など）の動きを経験している。
- 軽いボールを投げ上げて、床やマットで一回転し、落ちてきたボールを捕る動き（簡単なクルッとキャッチ）を経験している。

- 「クルッとキャッチ」の運動を繰り返しすれば、どんな「クルッとキャッチ」もできるようになる (C0) と考えている。

このように働きかけると【働き掛け1】

- 工夫の観点を示し、難易度を上げた挑戦の場で運動させる。
 指示「前回の授業で、ほとんどの人が、軽いボールでの『クルッとキャッチ』をマスターすることができました」
 発問「もっと難しい『クルッとキャッチ』に挑戦してみたいですか」
 指示「では、どのように難しくすればよいのでしょうか。こちらの『工夫の観点』（「観点」という言葉が子どもには分かりにくいので、「動きのくふう」とする）を見て、何をどのように変えるのか考えて実際に運動してみよう」
 発問「どんなボールや回り方に挑戦したいですか。挑戦したいボールや回り方をワークシートに書きましょう」
 ※ 工夫の観点を見ただけではどのように工夫すればよいか分からない場合は、教師から例示したり、友達のアイディアを聞かせたりする。
 ※ ワークシートの記述から、次時の場の設定やグループ編成を考える。似たような挑戦の場の子どもでグループを組ませる。
 ※ 2回できたら「達成した」と判断させる。

<工夫の観点>

- ・小さい、大きい【大きさ】
- ・1つ、2つ、3つ【数】
- ・軽い、重い【重さ】
- ・前、横、後ろ【向き】
- ・速く、ゆっくり【速度】

このようになり (C1)

- 工夫の観点を見て、自分が挑戦したい場を考え、実際に運動してみる。
 ・僕は、軽いボールはキャッチできたので、今度は重いボールに変えて、マットで前転を1回転してから捕る「クルッとキャッチ」に挑戦したい。
 ・私は、1回転はクリアできたから、次は、マットで前転を2回転してから捕る「クルッとキャッチ」をがんばりたい。
 ・僕は、ボールも回り方も変えて、小さなボールで、側方倒立回転してから捕る技に挑戦するぞ。
 ※ 「工夫の観点」を基に、ボールの種類を変えたり、回り方を変えたりして動きを工夫して、「クルッとキャッチ」をいろいろと試す。実際にやってみて達成できなかった「クルッとキャッチ」を選択し、「達成できるようになりたい」と意欲を高めた子どもを、問いをもったと判断する。

このように働きかけると【働き掛け2】

- どこがよくないのかと問い、「動きのカルテ」を提示する。
 発問「前回の授業で、自分が挑戦したい『クルッとキャッチ』が決まりました。どうしてできないのでしょうか。どこがよくないと思いますか」
 発問「どうすればよいか困っている人は、手を挙げましょう。何に困っているのですか」
 ※ 困っている人がいたら、「動きのカルテ」を提示する。
 指示「困っている人のために、『動きのカルテ』を用意しました。それを基にしながらか、自分はどのように体やボールを動かしているのか確認してみよう。そして、『動きのカルテ』に○を付けたり、別のこつを見つけた人は、その他のところに書いたりしましょう。書けそうですか。質問や意見はありますか」
 ※ タブレット端末を借りたいという声があったら、iPadを使わせる。
 指示「使い方ですが、やる人と撮る人とに分かれて、撮り終わったら映像を見ながら動きのカルテを記入する。そして役割を反対にして同じようにやるというやり方でやりましょう。iPadはグループで1台使います。また、自分の『動きのカルテ』を書き終わったら、体育館の壁に貼ってある拡大した『動きのカルテ』に、自分と同じ考えのところにシールを貼ったり、その他に書いたこつを付箋に書いて貼ったりしましょう」
 指示「集合。今日の授業で挑戦した「クルッとキャッチ」ができた人は手を挙げましょう。最後に、今日の授業の感想と次の目標をワークシートに書きましょう」

このようになり (C2)

- どこがよくないのかを考える。
 ・ボールの投げ上げが低すぎるのかな。
 ・うまく回転できない。どうすればよいのかな。よく分からない。
 ○ 困っていると挙手し、何に困っているのかを発表する。
 ・どうするとできるようになるか、分かりません。
 ・なんでできないんだろう。
 ○ 質問したり、意見をしたりする。

- ・自分の動きが見たいので、iPadを貸して欲しいです。
- なぜ達成できないのか、自分の動きを「動きのカルテ」を視点を調べる。
- ・動画を見ると、私は、回転速度が遅い。背中があまり丸まっていないな。これが悪いのかな。
- ・ボールの高さが低い気がする。もっと高く投げ上げるとよいのかな。
- 拡大した動きのカルテにシールや付箋を貼る。
- ・僕は、こっちにシールを貼ろう。僕と同じところにシールがいっぱいあるぞ。
- ・私は、こっちにシールを貼ろう。私と同じところは少ないな。
- ※ 「動きのカルテ」に○を付けたり、その他のこつを記述したりした子どもは、自分の体や用具の動かし方に着目したと判断する。

ここから本時

このように働き掛けると【働き掛け3】

- ネームプレートや付箋が貼られた「みんなのカルテ」を提示し、できない原因を問う。
- 指示「前回の授業で、挑戦した『クルッとキャッチ』ができるようになるには、どうしたらよいかを考えて、「動きのカルテ」を書きました。みんなの意見をまとめたものが、こちらの「みんなのカルテ」になります。これと同じ画像がiPadに入っているの、見えない場合はそちらを見ましょう」
- 発問「前回の授業では、多くの人が『ボールが思ったところに投げられない』『素早く回ろうとしても素早く回れない』という悩みがあったようです。この悩みを解決できるこつは、何でしょうか」
- 発問「その体の場所は、どのくらい動かしただのですか」
- ※ 必要に応じて、体や用具の動かし方の程度を問い返す。
- 発問「『みんなのカルテ』を見たり、友達の発表を聞いたりして、自分が考えたことと違う、もしくは自分は気付かなかったという意見がありましたか。『クルッとキャッチ』ができなかった原因（理由）は何だと思えますか。これが原因ではないかと思うものを四角の中に原因を書きましょう」

このようになり（C3）

- 「動きのカルテ」を記述して気付いたことの発表を聞いたり、「みんなのカルテ」を見たりして、共通点や相違点を探す。
- ・僕は、背中を丸めた方がよかったです。その方が、回転速度が速くなるからです。
- ・私は、足下を見ないで、ボールを見るように気を付けたらうまくいきました。
- ・僕は、○○さんと違って、ボールをあまり高く上げないで、速く回るようにしました。高く上げすぎると変なところにボールがいて、うまく捕れないからです。
- ・あんなやり方があったのか。僕は、気が付かなかったな。
- 自分のできない原因に気付き、友達の体や用具の動かし方を試したくなる。
- ・△△を選んでいる人が多いぞ。僕とは違う。もしかして、△△のように動かしていたのがよくなかったのではないか。
- ・○○さんは、私と違う意見だ。これは正しくないのかな。これがうまくできない理由じゃないのかな。試してみたいな。
- ・もしかして、僕が気付かなかったあのやり方がうまくできるためのこつなんじゃないかな。まねしてみよう。
- ※ 「友達の体や用具の動かし方を自分に取り入れれば、挑戦の場を達成できるのでないか。友達の体や用具の動かし方をまねしてみよう」というように、友達の体や用具の動かし方を試してみたいと考えた子どもに、次のように働き掛ける。ただ、「まねしたい」という言葉は子どもから出にくいことが予想される。ここでは、自分のカルテとは別の体や用具の動かし方を原因として記述をした子どもを通過者と見なす。

このように働き掛けると【働き掛け4】

- 友達の体や用具の動かし方をタブレット端末で撮影させながら試させる。
- 指示「『これがよくなかったからだ』といううまくできなかった原因（理由）や『これに気を付けるとできるかもしれない』という動きのこつはありましたか。自分とは違うこつや気付かなかったこつを実際に運動して、挑戦の場を達成できるかどうか確かめてみましょう」
- 指示「ペア（もしくはトリオ）で活動します。挑戦をする人は、ワークシートに、どのこつを試すのかを記入し、やってみてどうだったかをフローチャート図に書き込みましょう。ペアの人は、やりたいことができているかどうかをしっかりと撮影して、アドバイスしてください」
- ※ フローチャート図の書き方を説明する。
- ※ どこを撮影してもらおうか伝えるように指示する。
- 指示「○○さんが、成功しました。見せてもらいたい人は、こちらのマットに集まりましょう」

このようになる (C4)

- 関係付けるすべを用いて、自分の体や用具の動かし方と友達の家や用具の動かし方とを関係付けて考え、「クルッとキャッチ」ができるようになるためのこつを見だし、「クルッとキャッチ」ができるようになる。
 - ・私は、背中が少ししか曲がっていなかったけど、多くの人は大きく丸めて体を小さくすると、回転速度が速くなってうまくいきそうだ。
 - ・ボールを高くするって言う人が多いから、これをまねしてみよう。(挑戦後) 高く上げすぎると、変なところに行っちゃってキャッチできない。
 - ・みんなのカルテを見ると、回る速さを速くする必要があるみたいだ。私はちょっと遅かったな。(挑戦後) あまりボールを高く上げなくても、速く回ればうまくキャッチできそうだ。
- ※ 子どもが自分のできない原因を基にして、それを克服できそうな体や用具の動かし方を「みんなのカルテ」や友達の映像を見たり、友達から教えてもらったりしながら挑戦しているかを見取る。
- ※ 「クルッとキャッチ」ができるようになったかどうかを、実際の子どもの様子で判断する。

このように働き掛けると【働き掛け5】

- 成功に至るまでに、どのように運動してきたのかを問う。
発問「どうでしたか。難しい「クルッとキャッチ」はできるようになりまし
たか。最後に、できるようになるための『クルッとキャッチ』達成運
への秘伝書」を書きます。成功に至るまでに、あなたはどのように運
動してきたのですか。① 始めの自分の様子とできなかった原因につい
て、② そのためにどのように運動したのか、③ なぜできるようになっ
たのかなどを入れながら、成功までの道が分かるようにワークシート
に書きましよう」
- ※ 書き方で分からないことがあったら、質問を聞いて答える。

このようになる (Cn)

- 友達の体や用具の動かし方を基にしながら考えたり工夫したりして、「クルッとキャッチ」のこつを見いだして、「クルッとキャッチ」の動きの身に付けることができたかが分かる。
 - ・僕は、始めは軽いボールでの前転1回転キャッチはできたけど、ボールを重いものに変えたら、何回やってもできなくなりました。それは、回転する速さが遅かったからだと考えました。「みんなのカルテ」を見て、自分の「動きのカルテ」と比べたら、膝をしっかりと曲げて、体を小さく丸めると回転が速くなると知ったので、それに気を付けて運動しました。すると、重いボールで前転1回転キャッチができるようになりました。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、考えるすべを用いながら、既有事項を基に課題解決に必要な情報を収集・判断することができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、学びをつなぐことができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3および4において、比較するすべや関係付けるすべを用いながら、自分の体や用具の動かし方を基に友達の体や用具の動かし方を試し、「クルッとキャッチ」のこつを見いだすことができたかを、働き掛け3および4のワークシートの記述や発言により判断する。
具体的には、働き掛け3のワークシートに、自分のできない原因を記述し、働き掛け4のフローチャート図で原因を克服できそうな友達の体や用具の動かし方を試して、動きのこつを見いだしているかどうかを、ワークシートの記述や発言により判断する。
 - ② 働き掛け5において、友達の体や用具の動かし方を基にしながら考えたり工夫したりして、「クルッとキャッチ」のこつを見いだして、「クルッとキャッチ」の動きの身に付け、Cnの姿になったかを、働き掛け4の子どもの様子や働き掛け5のワークシートの記述により判断する。
具体的には、「みんなのカルテ」や友達の動いている様子を見たり、アドバイスを聞いたりして、「クルッとキャッチ」のこつを見いだして運動したことで、「クルッとキャッチ」の動きを身に付けることができたかどうかを、子どもの様子やワークシートの記述により判断する。
- ※ 上記①、②の両方があれば、表れありと判断する。